

診療放射線認定専門技師の能力開発に関する考察

—認定資格の問題点と改善提案—

立命館大学大学院テクノロジーマネジメント研究科 片桐邦彦 名取隆

診療放射線技師は X 線一般撮影、CT、MRI、血管造影、核医学検査、放射線治療など専門性が細分化され、それぞれの技術が急速に進歩している。近年安心・安全で質の高い医療を提供するために、各領域の専門性を高め、社会から評価されるスペシャリスト診療放射線技師を養成しようと多くの専門技師認定機構が設立された。

ハイテク医療機器を扱う診療放射線技師は、チーム医療における重要な役割を担っており、専門性の向上と安心・安全かつ高度な画像情報の提供を図ることが求められている。現在日本には肺がんCT検診認定技師など、16の認定技師機構がある。

一方でそれぞれが独自の基準で運営され、統一性がなく、医師の専門医や看護師の認定看護師と比べてみると病院内や社会での認知度が著しく低いという現状にある。

国民から十分な理解の得られる内容でなければならず、それを実行するには認定機構毎の設置趣旨、理念、認定・設置基準、研修基準、認定、更新基準、検定・認定・更新料金などで統一がなされる必要がある。

2014年6月に開催された日本経営システム学会第54回（2015年春季）全国研究発表大会では、荒木（2007）を参考に、九州工業大学大学院生命体工学研究科生命体工学専攻のディプロマポリシー（学位授与基準）を分析カテゴリーとして用い、アンケート項目を独自に作成し、診療放射線技師5名にインタビュー形式によるアンケートに回答してもらい、結果を分析し考察した。

今回の発表では劣っていたコミュニケーション能力について、医師、看護師、薬剤師、検査技師の事例を元に比較検討し提案することで、診療放射線技師がチーム医療に貢献し、同時に誇りを持って仕事に取り組めるようになればと考える。